

June 5, 2019

**【前日の為替概況】パウエルFRB議長のハト派発言でNY株高、ドル円は108.36円まで反発**

4日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに小反発。終値は108.15円と前営業日NY終値(108.07円)と比べて8銭程度のドル高水準だった。アジア市場では107.85円と1月10日以来の安値を付けたものの、欧米市場では下げ渋った。中国商務省が「貿易摩擦は対話によって解決すべき」との声明を出したほか、メキシコのロペスオブラドール大統領が米国との移民問題について「トランプ米大統領が設定した期限の10日より前に米国と合意が得られる。協議は上手くいっている」との見通しを示したと伝わった。米国を中心とした貿易摩擦を巡る過度な警戒感が後退し、米国株相場が大幅に反発。米長期金利も上昇したため円売り・ドル買いが優勢となり、108.36円まで反発した。

しかし、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長が「FRBは景気拡大の維持のため適切に行動する」などと述べると、米利下げ期待が強まりドルの重しとなった。

ユーロドルは3日続伸。終値は1.1251ドルと前営業日NY終値(1.1241ドル)と比べて0.0010ドル程度のユーロ高水準だった。欧州時間に発表された5月ユーロ圏消費者物価指数(HICP)速報値が予想を下回ったことでユーロ売り・ドル買いが先行し、米貿易摩擦の激化懸念が後退し米10年債利回りが2.14%台まで上昇したこともドル買い戻しを誘い、1.1227ドルと日通し安値を付けた。ただ、パウエルFRB議長の発言を受けて米利下げ観測が強まったため、1.1267ドル付近まで切り返す場面があった。

ユーロ円は反発。終値は121.68円と前営業日NY終値(121.49円)と比べて19銭程度のユーロ高水準。米利下げ観測が強まったほか、貿易摩擦への懸念も和らぎ投資家心理が改善すると円売り・ユーロ買いが優勢となり121.79円まで反発した。

メキシコペソはしっかり。メキシコ大統領が「関税発動を前に米国と合意に至る」との見通しを示したことで、通貨ペソを買い戻す動きが広がり、対ドルで19.5180ペソ、対円で5.55円までペソ高が進んだ。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、パウエルFRB議長のハト派発言で伸び悩む展開か**

本日の東京市場のドル円は、米中貿易戦争への警戒感やパウエルFRB議長のハト派発言を受けた米連邦準備理事会(FRB)の利下げへの警戒感から上値が重い展開が予想される。

3日は、今年の米連邦公開市場委員会(FOMC)で投票権を有するハト派のブラッド米セントルイス連銀総裁が「近く利下げが適切になる可能性がある」と、市場が織り込んでいる年内2回の利下げの可能性を迫認した。

4日は、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長が「FRBは景気拡大の維持のため『適切に行動する』と利下げの可能性を示唆し、従来の金融政策に対する「忍耐強い様子見」スタンスに言及しなかったことで、利下げ観測が高まった。

トランプ米大統領は、「国際経済緊急権限法(IEEPA)」に基づく大統領令により、6月10日にメキシコに対して5%の制裁関税を発動する、と宣言したが、本日5日が交渉期限となっている。3日には、ロス米商務長官とマルケス・メキシコ経済相が会談し、5日には、ポンペオ米国務長官とエブラルド・メキシコ外相が会談する予定となっている。ロペスオブラドール・メキシコ大統領は「米国との移民問題に関する協議は上手くいっている。トランプ米大統領が設定した期限の10日より前に米国と合意が得られる」と楽観的な見解を示しているが、依然として予断を許さない状況は続く。

米中貿易戦争に関しては、6月28-29日の大阪サミットでの米中首脳会談に向けたカウントダウンが始まっているが、中国は2日に「米中貿易協議の中断は米国に全責任がある」として、レアアース(希土類)の対米輸出規制を警告し、米国は3日に「中国は米中通商協議の過程を誤って伝えている、中国の交渉担当者は通商協議で最終案をまとめる際、それまで合意していた項目を撤回した、と反論しており、通商交渉から非難合戦の様相を呈し始めている。

日米通商協議に関しては、7月の参議院選挙後に決着が先送りされたものの、来週10-11日にワシントンで実務者による農産物、工業製品に関する貿易交渉が行われる模様で、予断を許さない状況が続くことになる。

本日は、1-3月期豪国内総生産(GDP)(予想:前期比0.5%・前年比1.8%)が発表されるが、ロウRBA総裁が追加利下げの可能性を示唆していることで、ネガティブサプライズとなった場合の豪ドル円の下落がドル円の上値を抑える可能性に要警戒となる。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

&lt;国内&gt;

特になし

&lt;海外&gt;

- 10:30 ☆ 1-3月期豪国内総生産（GDP、予想：前期比0.4%／前年比1.7%）
- 10:45 ◎ 5月Caixin中国サービス部門購買担当者景気指数（PMI、予想：54.0）
- 16:50 ◎ 5月仏サービス部門PMI改定値（予想：51.7）
- 16:55 ◎ 5月独サービス部門PMI改定値（予想：55.0）
- 17:00 ◎ 5月ユーロ圏サービス部門PMI改定値（予想：52.5）
- 17:00 ◎ ラムスデン・イングランド銀行（英中銀、BOE）副総裁、講演
- 17:30 ◎ 5月英サービス部門PMI（予想：50.6）
- 18:00 ◎ 4月ユーロ圏卸売物価指数（PPI、予想：前月比0.3%／前年比3.2%）
- 18:00 ◎ 4月ユーロ圏小売売上高（予想：前月比▲0.4%／前年比1.5%）
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表（予想：1.50%で据え置き）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 21:15 ☆ 5月ADP全米雇用報告（予想：18.3万人）
- 21:30 ◇ 1-3月期カナダ労働生産性指数（予想：前期比0.3%）
- 22:45 ◎ 5月米サービス部門PMI改定値（予想：50.9）
- 22:45 ◎ 5月米総合PMI改定値
- 22:45 ◎ クラリダ米連邦準備理事会（FRB）副議長、あいさつ
- 23:00 ◎ ボウマンFRB理事、議会証言
- 23:00 ☆ 5月米サプライマネジメント協会（ISM）非製造業指数（予想：55.5）
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 24:00 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、講演
- 6日 03:00 ◎ 米地区連銀経済報告（ページブック）
- シンガポール（ハリラヤプアサ）、インド（イスラム教断食明け祭）、トルコ（砂糖祭）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

4日 08:05 米財務省・米通商代表部(USTR)共同声明  
「中国は米中通商協議の過程を誤って伝えている」  
「中国は最終案をまとめる際、それまでの合意項目を撤回した」

4日 09:40 麻生財務相  
「穏やかに回復するという基調は変わらない」

4日 09:51 茂木経済財政相  
「6月10-11日に、日米通商交渉に関して米国で実務者協議を開催」  
「農産物や工業製品について協議する予定」

4日 13:30 豪準備銀行(RBA)声明  
「今回の決定、雇用の成長支援、インフレが中期目標と一致するという確信を高めるため」  
「最近のインフレは予想よりも低く、インフレ圧力が経済の多くで抑制されていることを示唆」  
「もっともインフレは依然として回復すると予想」  
「労働市場の動向を注意深く監視」  
「経済の持続的成長と長期にわたるインフレ目標を達成するために金融政策を調整」  
「貿易摩擦に伴う下方リスクが高まった」

4日 16:02 ウォレス英保安担当相  
「政府はまだファーウェイを使用するかの結論には達していない」  
「英国はファイブアイズ(UKUSA協定)や欧州の同盟国の話を聞く」

4日 16:44 中国外務省  
「米国との通商交渉の全てを、米国が合意を破った」

4日 17:39 ビルロワ・仏中銀総裁  
「欧州は大きな経済の不確実性に直面」  
「貿易衝突の高まりが成長にもっとも大きなリスク」

4日 18:36 ロウ RBA 総裁  
「さらなる利下げが妥当ではないとは言えない」  
「金利の動向について理事会はまだ決定していない。労働市場次第」  
「インフレ目標の引き下げは想定していない」  
「予想していた程利下げにより豪ドルは下落しなかった」  
「豪ドル安は我々にとって有益」  
「他国のような非常に低い金利水準にならないと予想」

4日 19:46 ルメール仏財務相  
「金利が低い間に投資をしなくてはならない」  
「均衡の取れた予算は定説ではなく目標」

4日 20:49 エブラルド・メキシコ外相  
「ワシントン訪問は有益だった」  
「再交渉におけるメキシコの主な焦点は移民」

4日 20:50 中国商務省  
「米国との貿易でのすれ違いは協議や交渉で解決すべきだ」

4日 21:11 エバンス米シカゴ連銀総裁  
「他の大勢よりも2%のインフレ目標に積極的だ」  
「経済は順調、インフレ率は2%に近い」  
「貿易の不確実性が設備投資に影響している」  
「現在の政策には満足だが、インフレ水準には懸念」  
「経済のファンダメンタルズは堅調、消費と労働市場は力強い」

4日 21:21 ロペス・オブラドール・メキシコ大統領  
「10日の関税発動を前に米国と合意に至るだろう」  
「米国との協議は上手くいっている」

4日 21:37 マガシユル南ア・与党アフリカ民族会議(ANC)幹事長  
「中銀の目標を拡大すべきだ」  
「中銀は物価安定だけでなく、経済成長と雇用拡大を目標にするべきだ」  
「失業は南アの緊急課題だ」

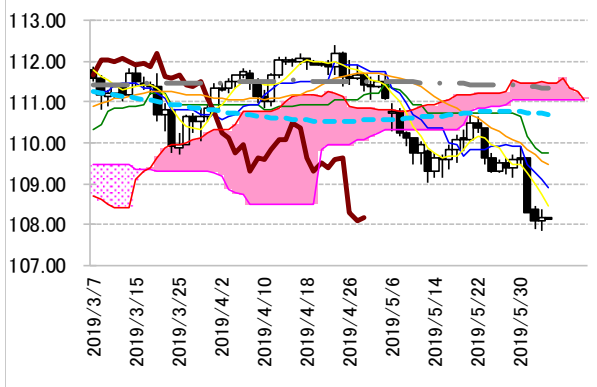
4日 22:14 メイ英首相  
「英米経済はともにしっかりと成長している」

4日 22:17 トランプ米大統領  
「米英は多くの目標を共有している」  
「米英はファーウェイを巡り合意できると期待」  
「来週、メキシコからの輸入品すべてに5%の追加関税を課すだろう」

4日 23:05 パウエル FRB 議長  
「FRBは貿易動向の影響を注視する」  
「FRBは景気拡大の維持のため適切に行動する」  
「経済は成長し失業率は低い。インフレは安定している」  
※時間は日本時間



## 〔日足一目均衡表分析〕



### <ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。ダブルトップ（112.14円・112.40円）形成後の窓（111.07円・110.96円）明け、目標値107.02円を目指す下落トレンドを形成中。底値圏での孕み線で反発の可能性が示唆されているものの、3日陰線の実体部の中心値や転換線を下回っていることで、下落トレンド継続か。

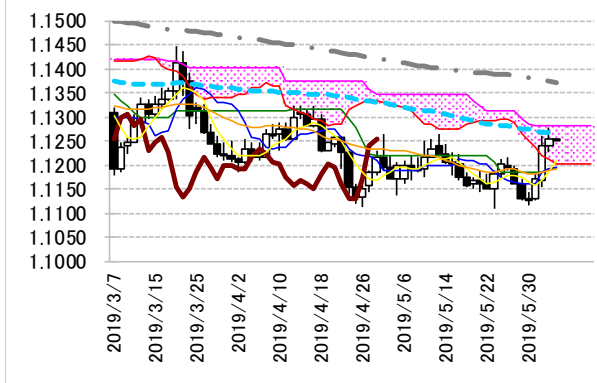
本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 108.89(日足一目均衡表・転換線)

前日終値 108.15

サポート1 107.77(1/10安値)

サポート2 107.52(1/4安値)



### <ユーロドル＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

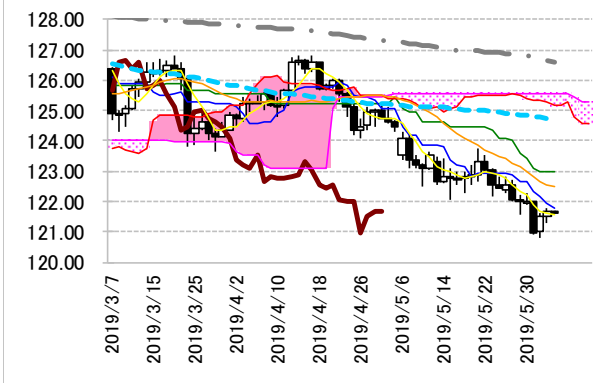
陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移していることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。底値圏での抱き線、三川明けの明星、3手連続陽線で反発の可能性が高まりつつある。

本日は、一目・転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 1.1280(日足一目均衡表・雲の上限)

前日終値 1.1252

サポート1 1.1197(日足一目均衡表・転換線)



### <ユーロ円＝3日安値を支持に押し目買いスタンス>

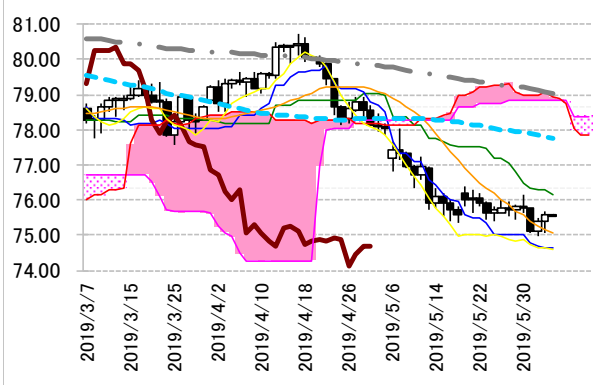
陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線、2手連続陽線で反発の可能性が高まりつつある。

本日は、3日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 122.70(5/28高値)

前日終値 121.68

サポート1 120.78(6/3安値)



### <豪ドル円＝3日安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線、2手連続陽線により、反発の可能性が示唆されている。

本日は、3日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1 76.84(日足一目均衡表・基準線)

前日終値 75.61

サポート1 74.97(6/3安値)

